チャンドス卿の手紙／アンドレアス

ホーフマンスタール著、丘沢静也訳（光文社古典新訳文庫・950円）

荒川洋治　評

立ち止まり、視点を[…]

　著名な文人が、文学活動を完全にやめることを報告する。それが「チャンドス卿の手紙」だ。四〇〇字詰原稿用紙で三〇枚ほどのこの散文は、文章を書く人の大多数に直接かかわる問題を早々と提起した。

　本書はオーストリアの文豪、フーゴー・フォン・ホーフマンスタール（一八七四―一九二九）の代表作五編の新訳だ。表題作「チャンドス卿の手紙」（原題「手紙」）の翻訳は『ホーフマンスタール選集』第三巻（河出書房新社・一九七二）の富士川英郎訳、岩波文庫『チャンドス卿の手紙　他十篇』（一九九一）の檜山哲彦訳、同『ホフマンスタール詩集』（二〇〇九）所収の川村二郎訳などにつづくものだ。

　ホーフマンスタール（ホフマンスタールとも記す）はオーストリア＝ハンガリー帝国の首都ウィーンの生まれ。一五歳でホメロス、ダンテなどを原語で読みこなす。一六歳から詩作、一九歳で詩劇「痴人と死」（森鷗外が翻訳）。早熟の文才を謳われ、文壇の寵児に。本書収録の小説「第六七二夜のメールヘン」「騎兵物語」など三編は二〇代。詩、韻文劇、小説に大きな才能を示したが、一九〇二年、二八歳のとき「チャンドス卿の手紙」を書いて、詩と小説の筆を折り、劇作の道を歩む。舞台を通して社会との関わりを深め、歌劇台本「ばらの騎士」、悲劇「塔」など多くの名作を残した。

　転換点となった「チャンドス卿の手紙」は、一六〇三年、イギリスの文人貴族フィリップ・チャンドス卿（架空の人物・二六歳）が、年長の友人である哲学者フランシス・ベーコン（一五六一―一六二六）にあてた返書だ。

　チャンドス卿はいう。『新説パリス』『ダフネーの夢』『祝婚歌』（これらで名声を得たらしい）を書いた自分は、もういない。これまでと現在の間に奈落があり、橋が架からない。精神、魂、身体といった語をつかうのも苦手。「判断を表明するためには、当然のことながら舌にのせざるをえない抽象的な言葉が、私の口のなかで腐ったキノコのようにぼろぼろと壊れた[…]る娘を叱ったと[…]ことを言わなければ[…]諭そうとしたの[…]の口のなかに押[…]ちが、突然、玉虫色に光りはじめて入り乱れ、区別がつかなくなった」。「私にはもう、[…]のごとを単一化する習慣の目で見[…]ってしまった」と。

　だが、それでも、感動はあるという。「取るに足[…]ない被造物や[…]や、ネズミや、[…]トムシや、[…]不良のリンゴの木[…]くねくね[…]っている丘の荷車[…]や、コケ[…]えた石のほうが」[…]あふれ[…]りの愛をもって私の[…]ってくる」ので、そ[…]そ表現したい。でも[…]語でも書けない。他[…]その単語を一つも知らなくても「ものを言わない事物が私に話しかけてくる」、そういう言語でならこの先何かをすることができるかもしれないと述べて手紙は終わる。

　一九〇二年の時点で、ことばへの不信、文学の危機、詩文の限界を表[…]二〇世紀文学の原点[…]の手紙」は、[…]れることになる。だ[…]青年の成長史[…]説「アンドレアス」が[…]かれたことを思えば、「[…]ス卿の手紙」の意義は[…]

　この小品の流れるようなことばの[…]ないということをとても的確に、鮮やかに描き出しているからだ。書くことで見えることではなく書かないことで見えることへ[…]、重心を移すことで文学活動の確認を行った、あるいは、来たるべきものに向けて自分を引き締めた。そういう作品と[…]現代は読[…]ようが自然かもしれない[…]稀少で、書く[…]った。ほんとうに自分は[…]いいのか。安易にこんなことをしていてよいのか。何かの判断が必要ではないか。そろそろフランシス・ベーコンに手紙を出さなくてはいけないのではないか。十分に思いをめぐらすためにも、「チャンドス卿の手紙」は、今日も重要な作品だろう。その場合でも、さほど深刻になる必要はない。「チャンドス卿の手紙」のなかを漂う、小さいもの、ひよわなものに向けるやわらかな愛情や、文章の明るさも、この作品の魅力なのだ。今回の新訳も含めて、何度読んでも色あせないのはそのためだろう。

　本書からは離れるが、ホーフマンスタールには「道と出会い」（一九〇七）という、未知の宝石のような輝きを放つ作品がある。「抱擁」よ[…]も「出会い」のほうに人間のゆたかな可能性がこめられていること[…]い、すばらしい文章でつづ[…]たものだ。また、一〇代後[…]始めら[…]た文芸批評も、古典から[…]時代[…]で広範囲に及ぶ、すぐれた[…]がりだ。「チャンドス卿の手紙」[…]全体の活動の一つの道標として見るべきものなのだろう。ホーフマンスタールはこのときだけ、立ち止まった。手紙を書いた。

エリザベスの友達

新潮社・1944円

著者　村田喜代子（むらた・きよこ）さん

認知症の心の世界に向き合う

　今作は、認知症を患い施設で介護を受ける高齢者たちが主人公の物語だ。死期が迫る中、かつて過ごした時間とその記憶のなかで生きる姿を描く。「認知症のお年寄り一人一人の中に、心の世界が広がっている。忘れられない時間や記憶があるんです」

　物語に登場するのは、施設入所者や家族、介護士ら。主人公の一人、97歳の初音は穏やかな生活を送るが、時折幻覚が見える認知症の女性だ。戦時中、中国の天津租界で暮らした初音は症状が進行するなか、当時の楽しい思い出や過去の記憶の海を漂うようになる。

　その中で現れるのが、清朝最後の皇帝溥儀の妻婉容だ。婉容の英語名はエリザベス。巻末にも掲載されている松村由利子さんの短歌「もう誰も私を名前で呼ばぬから　エリザベスだということにする」から着想を得て、史実に結び付いたという。

　文中、このエリザベスと初音が交わした「架空」の会話の場面がある。

〈「マイネーム　イズ　エリザベス」

　ええ、わかってるわ。あなたは、エリザベスね。[…]

「エリザベスとい[…]は女性の代名詞のような名[…]ですね。自分とそのエリザ[…]スは友達だった、そう思[…]けで初音さんもすごく幸[…]なん[…]す」

　現実と幻覚の間を[…]まよ[…]うに生[…]るのは[…]だけでない。[…]語由来の[…]演奏が始まると「敵性言語じゃ！」と怒鳴り続ける男性。95歳の女性は戦場の砲声を聞いて鉄兜[…]る[…]。「認知症の方[…]れぞれに[…]それなりの行動する理由[…]ある。時に恐ろしい幻覚を[…]たり、若いころの[…]烈な記[…]反応したりして[…]う。一方[…]、幸せな時代に[…]こともあ[…]。ある意味で認[…]は自[…]

　人間の心の世界にどう向き合うのか。認知症や老いを温かな視点と静かな筆致で描くことで、このテーマに迫って[…]く。「[…]知症や老いは）[…]合い方に[…]て、そ[…]にもなる[…]思います[…]会でど[…]きていく[…]トを[…]てくれる[…]

　文と写真・[…]原一城

「影の総理」と呼ばれた男　野中広務　権力闘争の論理

菊池正史著（講談社現代新書・950円）

　京都府の園部町議から小渕内閣の官房長官にまで上り詰めた野中広務氏は、毀誉褒貶半ばする複雑な政治家だった。かつて担当記者だった著者による本書は、単なる評伝にとどまらず、「複雑性」の背景をたどりながら時代の底流をえぐり出そうとする同時代論だ。

　戦争の悲しみを知る野中氏には、戦前の権力者が理念を振りかざし、国民を統制し、その結果、300万人の命の犠牲と、国の荒廃を招いたことへの怒りがあった。「権力者は間違う可能性がある」という戦争の教訓から、反対意見も吸収し、落としどころを探るという複雑な調整を重視する野中氏の政治に、著者は戦後保守の真髄を見いだしている。

　京都府議時代の共産[…]の攻撃や小沢一郎、小泉純一郎両氏[…]権力闘争も、妥協を嫌い、敵味方[…]別するという、権力者に潜む偏狭性との闘いであり、調整という文化を守るための闘いだったことが描かれている。

　財務官僚による公文書改ざんという腐敗すら芽吹く時代。戦争の悲惨さを知る政治家がいなくなった今、その世代が残そうとした教訓を思い起こすためにも一読に値する。（省）

[…]保体制史

吉次公介著（岩波新書・929円）

[…]いかに生まれ、なぜ70年近く持続しているのか。どう変容してきたのか。本書は戦後長く日本の政治・外交の基軸である日米安全保障体制の歴史を描くものだ。

　日米安全保障条約はもともと、「（日本の）独立を暫定的に保護」するためのものだった。冷戦下は日本外交の基軸として存在感を増した。冷戦後はアメリカの世界戦略の中で変容し自衛隊の対米協力が拡大されてゆく。こうした歴史をキーマンたちの言動などで浮き彫りにする。政府がいかに沖縄を無視し、頭越しに安保政策を進めてきたかも。

　日米地位協定にみられる不平等性、在日米軍基地の危険性を是正し、日米両政府が情報の透明性を保障すべきだ、という主張もうなずける。アメリカに「見捨てられる恐怖」に[…]られて「安保体制の維持・強化[…]己目的化」することがあっては[…]ない、という指摘も鋭い。

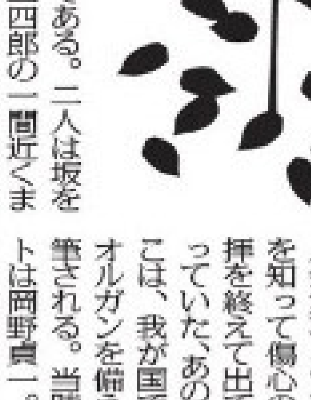
　沖縄の米軍基地移転問題や安[…]三内閣による集団的自衛権の行[…]認、法外な値段でアメリカから[…]と武器を購入していることなど[…]の前のいっけんバラバラな事象[…]安保体制の歴史軸に位置づけ理[…]ることを助ける一冊だ。（[…]）

昨日読んだ文庫

[…]敬子

　晩秋の[…]後、夏目[…]石著「三四郎」[…]の本郷の池へ散策にでかけた。三四郎は熊本の高等学校を卒業して、[…]会者であっ[…]。国元の母親は心配して、同郷の先輩、野々宮宗八が理科[…]部の前[…]いるから、あいつに行くようにと手紙を寄こした。翌日[…]た新学期が始まって[…]いない、暑中休暇中の[…]科大学[…]訪れた。小説に[…]、「午後[…]時[…]高等学校の[…]通って[…]町の門から這入った」とある。私も真似て、弥生門から本郷キャンパスに這入った。

　さて、三四郎が理科大学に行くと、その日、野々宮は穴倉のような研究室で、光線の圧力の試験をしていた。望遠鏡を覗かせてもらったが、三四郎にはさっぱりわからない。礼を言って外に出た。夕方だが、暑いので構内にある森に足を踏み入れた。蜩が鳴いていた。池の端にしゃがんでいると、左手の岡の上に二人の女が立っているのが見えた。奇麗な着物を着た女と白衣の女である。二人は坂を下りて、三四郎の一間近くまで来た。このシーンでは、漱石はまだ着物の女の名が、美禰子だとは、明かしていない。



　椎の木が葉を茂らして、水際まで張り出していた。「これは椎」と白衣の女が教えると、「そう。実は生っていないの」と着物の女は言いながら、三四郎に眼を遣った。三四郎は女の黒目の動く刹那を意識した。これが三四郎と美禰子の最初の邂逅であった。

　私が行ったときは、椎の[…]がいっぱい落ちていた。[…]道はベルツ博士の胸像の[…]通って、龍岡門に出てみ[…]春日通りまで行くと、斜[…]に見えるのは、本郷中央[…]（会堂）である。美禰子の[…]を知って傷心の三四郎が、[…]拝を終えて出て来る彼女を[…]っていた、あの教会である[…]こは、我が国で最初にパイ[…]オルガンを備えたことでも[…]筆される。当時のオルガ[…]トは岡野貞一。東京音楽[…]でも唱歌を教えていた。唱[…]「ふるさと」の作曲者であ[…]

　夏目漱石はクラシック音[…]に関心をもっていた。三四[…]が憧れる美禰子は、ヴァイ[…]リンをたしなむハイカラ[…]性であった。（音楽学[…]）

MAGAZINE

Number　968・969号　スポーツブーム平成史　熱狂を超えろ（文藝春秋・600円）

　三十年という時間を振り返るとき[…]記録を指標にするか記憶を頼りにす[…]かで、自分の現在を照らす光は変[…]てくる。スポーツは両者がせめぎ[…]場所だ。動画の時代に、紙の上の[…]事が、内臓に溜まっていた時間の[…]ゆさぶり、競技者自身によって言[…]された体験を読者の身体に送り込[…]

　浅田真央との対談の中で、伊藤[…]りが、アルベールビル五輪のフリ[…]半で決めたトリプルアクセルの、[…]前のスピン》を語っている。一本目[…]失敗を帳消しにする決断がなさ[…]た静かな数刻。ブラウン管に[…]近づけていた当時の空気がゆ[…]りと現在の、未来の私を包む。[…]んな記憶の働きに、元号の磁[…]あまり影響しない。（[…]）

今週の執筆者

「この3冊」の村主一郎さんの著[…]は『うしろめたさの人類学』（ミシマ社）など。若島正さんは京大名誉教授（[…]学）▽湯川豊さんは文芸評論家▽井[…]子さんは中国文学者▽池澤夏樹さん[…]家▽荒川洋治さんは現代詩作家。「[…]読んだ文庫」の絵は舟橋全二さん。

おかげさまで23周年　日本僑報社　1月 出版案内　The Duan Press
http://jp.duan.jp/　〒171-0021 豊島区西池袋3-17-15　Tel 03-5956-2808　Fax 5956-2809　E-mail info@duan.jp
ご注文は全国の書店またはオンライン書店等をご利用いただけます。トーハン・日販その他 取次コード：5752　※表示価格はすべて税別

中国国家主席 珠玉のスピーチ集
習近平はかく語りき
中国「新時代」を知るための必携書！
福田康夫元内閣総理大臣推薦！
「中国の新理念や新戦略、さらには習主席の指導方針や思想の源を知ることのできる貴重な一冊です」
人民日報評論部 編　武吉次朗 監訳　日中翻訳学院 訳　3600円

データで中国の未来を予測
2050年の中国
清華大学 胡鞍鋼　鄢一龍　唐嘯　劉生龍 著　段景子 訳　2050円
中国の建国100年の翌2050年までのロードマップを明らかにした第一級の論考。

中国コンテンツ産業対外貿易の研究
劉建華 著　大島義和 訳　4800円

改革開放・鄧小平訪日40周年記念
中国経済研究の必読書
改革開放とともに40年
清華大学教授 胡鞍鋼 著　日中翻訳学院 訳　3600円
中国経済の飛躍の理由を、自身の半生を振り返りつつ、その裏側まで深く描き出す

第1回 受賞作品集
忘れられない中国滞在エピソード
心と心つないだ餃子
伊佐進一・小島康誉など44人 共著　段躍中 編　2200円
日テレ・共同通信・朝日新聞・人民日報他 多数メディアが報道！
第2回 忘れられない中国滞在エピソード 2019年開催決定!!
忘れられない中国留学エピソード　段躍中編 2600円　受賞作品集［日中対訳］好評発売中!!
詳細・http://duan.jp/cn/

見た・聞いた・感じた・書いた、新鮮ニッポン！
第14回 中国人の日本語作文コンクール受賞作品集
中国の若者が見つけた日本の新しい魅力
［第14回受賞作品集］段躍中編　2000円
特別収録 現場の日本語教師の体験手記「私の日本語作文指導法」
中国若者たちの生の声
好評発売中！第1～13回（2005～2017）受賞作品集
第15回 テーマ発表
①東京2020大会に、かなえたい私の夢！
②日中新時代を考える―中国の若者からの提言
③今こそ伝えよう！先生、家族、友だちのこと
中国人の日本語作文コンクール
応募期間 2019年5月15日（水）～31日（金）
詳細は http://duan.jp/jp/

関口知宏 著
大ヒット 新装版
「ことづくりの国」日本へ ――そのための「喜怒哀楽」世界地図
「ものづくり」から「ことづくり」へ――鉄道の旅で知られる著者が世界を旅してわかった日本の目指すべき指針とは？
中国の喜　韓国の怒　欧米の哀　日本の楽
1800円

ガイドブックに載っていない観光地
中国の"穴場"めぐり
日本僑報社 編 1500円　宮本雄二 元中国大使 推薦　関口知宏が語る
日本語と中国語の落し穴
日本語と中国語の妖しい関係
中国漢字を読み解く
中国研究書店 http://duan.jp/

山梨県立大学教授 張兵 著
訪日中国人から見た中国と日本
インバウンドのあり方
2600円
「爆買いやその行方ばかりが注目されているが、訪日中国人観光客がどんな人たちなのか、豊富なデータを使って分析している」――読売新聞 書評より
重版出来！

訪日中国人、「爆買い」以外にできること
「おもてなし」日本へ、中国の若者からの提言
日経一面コラム「春秋」掲載
朝日・読売・毎日・東京・赤旗新聞などで話題!!
日中交流研究所長 段躍中 編 2000円

外国人おもてなし必携の一冊！
病院で困らないための
日中英対訳 医学実用辞典
青山英康・南裕子先生推薦　松本洋子編著　2500円